

81.3に私の一切をかけて闘う

各支部長さんにおきする(その3)

日刊 勤労千葉

80.1.15

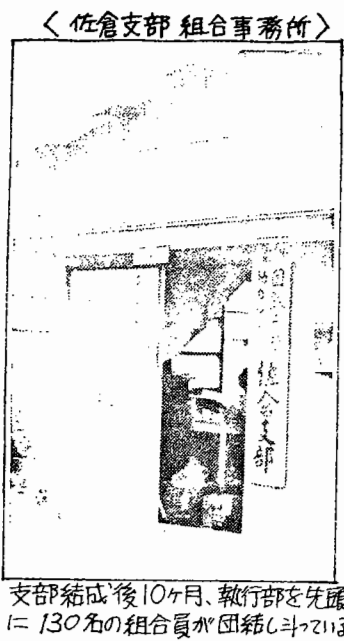
No. 632

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八乗) 電話三三二七二〇七

反動の流れを変えざるために

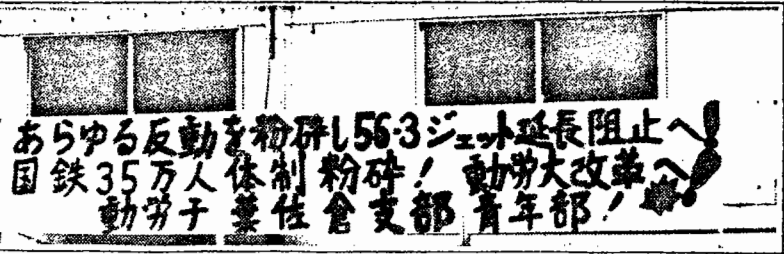
佐倉・堀口 執行委員長



支部結成後10ヶ月、執行部を先頭に130名の組合員が団結し闘っている

八一・三ジェット闘争を眼前に控え、佐倉支部を代表して決意の一端を申し上げます。まずなによりも、銚子支部の仲間が、「本部」派の「業務再開」なるデマとペテン、ファッショ的暴挙を粉砕して、勤労千葉と共に労働運動の原点にたつて闘うことを訴えます。

八一年は、日本のこれらの進路を決めるうえで重要な年ではないでしょうか。私は幼少時代、悲惨な戦争場面を目撃し、自分の子供にはこういうみじめな体験をさせてはならないと肝に銘じ小さい力ながら闘って参りました。しかし八〇年の政府自民党の相つぐ改憲発言、靖国法制定法案、



青年部の心電図を示す看板(検修庫)

私たちが佐倉支部は、昨年十二月二十三日第二回支部定期大会を開催し、闘う佐倉支部の伝統を守り、八一年・三に向けて闘争を全参加者で確認し、大成功をおさめました。これも一重に千葉本部・各支部のみなさんの御協力のためものだと感謝する次第です。

勤労千葉弁護団会議開かる 81.3の心勝を期して

一月十日、勤労千葉弁護団会議が千葉市・パレスホテルにて開かれた。この会議には、勤労千葉本部はじめ各支部からの代表者も出席し、熱心な報告・討論をへる中で、八一・三闘争必勝にむけて、権力・当局・革マル反動分子の敵対・弾圧を粉砕し、職場ぐるみの万全の闘争体制を築き上げることを確認していった。

用合理化攻撃など、勤労千葉の戦闘力破壊を狙った攻撃をかけてくる一方、「本部」革マル反動分子は、当局と一体となって、勤労千葉への組織破壊攻撃を繰り広げている。

われわれは、昨年の第四回大会において、三里塚闘争に連帯し、労農連帯の旗のもと、労働者の階級的責務をかけて、八一・三「ジェット燃料貨車輸送延長阻止」闘争を組織の命運をかけ、断固闘い抜く方針をうち出した。

八一・三闘争の決戦段階において、権力・機動隊が捜査を口実とし、また現場での混乱に乗じ、弾圧のため職場に介入することが充分想定される。以上の情勢にふまえ、二月中旬下旬から三月上旬にかけて、勤労千葉弁護団は、連日、職場に向し、不当弾圧を阻止し、八一・三闘争を勝利に導くため、われわれと共に闘いに立ち上ることを決定した。



81.3へバク進する佐倉で土屋粉一派は、次々と追いつめられている。